



矢板を打ち込み、中心域と水田を区画した溝

弥生時代の集落跡である青谷上寺地遺跡は、質・量ともに豊富な出土品や大規模な護岸を施した溝が発掘されるなど、全国有数の学術的価値を持つ遺跡として高く評価されています。

史跡指定の範囲

国史跡に指定される範囲は、弥生時代の人々が活動した痕跡や出土品が集中する中心域と周辺に広がる水田域の一部で、約14ヘクタールの区域です。本市では8件目の指定となります。

地下の弥生博物館

遺跡から見つかった弥生人の生活用具などは数万点に上ります。その内容は、農耕・狩猟・漁労といった生業に関わるものや、祭祀に使用したもの、食事のための道具など、さまざまです。

また、弥生人が大地に刻み込んだ痕跡も数多く見つかっています。集落であったと思われる部分を囲む大規模な溝や水田の跡などです。

さらに、大量の人骨とともに発見された「弥生人の脳」は大きな注目を集めました。

青谷上寺地遺跡は、その出土品の多さだけでなく、良好な保存状態であることから、弥生人の暮らしを知るうえで多くの情報を私たちに伝えてくれます。

この遺跡が「地下の弥生博物館」と呼ばれるのもこのためです。

弥生の匠

青谷上寺地遺跡の代表的な出土品に、精巧に作られた木製容器があります。

表面を黒漆や赤漆で模様を描いた壺、細かな透かしをいねいに開けた蓋付きの桶形容器、花卉状の浮き彫りを施した高杯、複数の板を巧みに組み合わせた指物の箱など。これらは、高度な技術を持った弥生の匠が製作したのでしょうか。

木製品の中には、製作途中のものも見られることから、この地に工房があったと考えられます。



さまざまな土器



さまざまな木製容器



海外との交流関係を示す遺物

出土品の内容 (平成 18 年 3 月時点)

土器	2573 箱 (コンテナ数)
木製品	9998 点
石製品	5263 点
鉄製品	365 点
青銅製品	46 点
ガラス製品	173 点
骨角製品	1427 点
獣骨	27000 点 以上
人骨	5323 点
人の脳	3 点
その他	編み物、組みひも、絹織物、 ふん石



貝製・骨角製の装身具



出土した建築部材 (屋根材)

遺跡整備活用基本計画の策定

本市では、鳥取県と共同で、平成20年度に「青谷上寺地遺跡整備活用基本計画」を策定することとしています。遺跡を「単に後世に残す」のではなく、「積極的に活用しながら残す」という考えのもと、現在、考古学専門家、地元代表者などで組織する基本計画策定委員会で検討

青谷上寺地遺跡は、大陸などの他地域との、海を利用した交流の玄関口としての機能を持っていたのです。

その範囲は、北陸や近畿、瀬戸内、北部九州だけでなく、朝鮮半島や中国大陸まで広がり、さまざまな地域と交流があったことがうかがえます。これら地域との交流によって、ものだけではなく、技術や文化、さまざまな情報も山陰地方にもたらされました。

交易拠点としての港湾集落

遺跡から見つかったさまざまな遺物の中には、山陰地方以外で作られたものや、他地域の影響を受けたと思われるものがあります。

問い合わせ先

青谷上寺地遺跡展示館
(青谷町青谷4064)
TEL (0857) 8510841

を進めています。
この基本計画案については、9月ごろに市民のみなさんから意見を募集する予定としています。



史跡に指定される範囲 (一部を除く)

写真提供：鳥取県埋蔵文化財センター